損保ジャパン日本興亜福祉財団　助成

紙 SNS　KAWAS

無料配布をしています

¥0

【宮城県北地域】
登米・南三陸
栗原・田尻

地域を繋ぎ、紙面に街をつくる
紙 SNS　KAWAS

発行所　特定非営利活動法人
故郷まちづくりナイン・タウン
〒987-0601
宮城県登米市中田町石森字小人町 71-2
電話／ファクス　0220-44-4301
Eメール　kawas@nine-town.org
HP　https://kawas.nine-town.org
今回発行予定部数　15,000 部
発行日　2019 年 6 月 30 日
発行責任者：　編集長　伊藤寿郎

紙 SNS かわす KAWAS

創刊準備号

題字　Design Studio 一筆　小山康博作

田舎だからこそ、活き活き暮らせる街を！「田舎レボリューション宣言」

かつての小さな田舎の街は、誰かが傍にいる安心感があり、小さな幸せがたくさんあった。

歩いて暮らせる街ではすれ違う人とあいさつが交わされ、顔の見える距離で想いを伝えあっていた。

初夏には蛍が飛び交い、夕立の雨宿りに軒先を借りた。

細い路地が子供達の遊び場だった。

街。

そこは夢が叶う公共の場所。

街は人が交流するところ。

街はお金や物やサービスが回るところ。

街は暮らしを支えるところ。

楽しかった街のことを、

紙の上につくり伝えたい。

それが紙ＳＮＳ-ＫＡＷＡＳです。

いま、地方は人口減少や少子化の影響で激しく変化を続けています。

それは人口が減る量の問題ではなく、多様な社会環境の変化からくる質の変化になっています。

例えば登米市のデータをもとに考えてみると、【表1】平成十七年と平成二十七年の就労者数の対比は、全体では千六百三十四人の減少になっていますが、世代別で見ると一律ではなく極端な違いがあることが分かります。この理由はどこにあるのでしょうか？原因を話し合いたいですね。

また、産業分類別の就業者の比較を見てみると【表2】第一次産業、第二次産業から、第三次産業に労働力が大幅に移動しており、そのうち四十七％は医療、福祉の分野で増加していることで日々の暮らしに大きな変化が生まれています。

また、増加率で最大の分野は不動産業の就業者数で、三百三十八％の増加率になっています。その原因に関しても皆さんと話し合いができたらと思います。

【表1】登米市世代別就労者数比較（単位：人）

年齢区分	H17 年	H27 年	増減
15-29	7,646	5,034	△2,612
30-59	28,469	25,109	△3,360
60-69	4,825	8,568	3,743
70 以上	2,658	3,253	595
計	43,598	4,1,964	△1,634

数字は各年の登米市統計表に記載されている国勢調査データを参照しています。

【表2】登米市産業別就労者数比較（単位：人）

産業区分	H17 年	H27 年	増減
第一次産業	7,335	5,212	△2,123
第二次産業	14,178	12,158	△2,020
第三次産業	22,085	24,594	2,509
計	43,598	41,964	△1,634

数字は各年の登米市統計表に記載されている国勢調査データを参照しています。（分類不能の産業は第三次産業に含めています）

このフリーペーパーは、高齢者と子育て世代の社会参加を応援するために発行を決めました。

高齢者の皆様にはこれまでの経験や今の生きがいになっていることや、楽しみを投稿していただき、読んだ人を支えるチカラになって欲しいと考えています。

一人じゃないんだよ。一緒に考えてくれる人がこの街には居るんだよ、と感じて欲しいですし、一緒に元気に暮らしていることを楽しんでいただきたいと思います。

子育て世代の皆様には田舎の街で暮らしながら身近な困りごとや子育てのアイデア、暮らしの知恵などの情報をやりとりできて、未来を支える子供たちが元気に幸せに暮らせるようにできたらと考えています。

この面の赤い線の内側に描いたり貼ったりして、キリトリ線（点線）で切り取って投稿してください。

この創刊準備号は紙面のイメージを知ってもらいながら、広告募集と皆様からの投稿の募集を目的としています。
今後は下記予定で発行します。

配布予定エリア
宮城県北部および岩手県南の一部
（当初は登米市、徐々に栗原・南三陸・一関等に拡大）

配布対象先
みやぎ生協組合員の一部に直接配布
ボランティアスタッフの直接配布および個別郵送

発行計画
（創刊準備号）　令和元年度 6 月　A3 サイズ両面カラー
両面　2 頁　15,000 部作成
（創刊号）　09 月　同サイズ　4 頁　20,000 部
（第 2 号）　12 月　同サイズ　4 頁　20,000 部
（第 3 号）　02 月　同サイズ　6 頁　30,000 部
令和 2 年度以降毎号 30,000 部発行予定　隔月発行（4・6・8・10・2 月予定）

川柳などの投稿欄

孫の手を引くつもりが引張られ
　岩手県　花野団子　八十三歳

今回はとりあえず編集長が書いてみました。

石森いろいろ市場欄

出展者を応援するコーナーを設け、商品やサービスの紹介をして参ります。

コラム欄

近隣の住民で、趣味や特技を活かした方々の話や、仕事に対する思い、旅日記などを書いてもらうコーナーを連載したいと考えています。

コラムのスペースは左の広告サイズと同じで、使い方は自由ですが、原稿料はお支払いいたしませんので、賛同者で支え合うＫＡＷＡＳをよろしくお願いします。

子育て応援欄

若い子育て世代の皆さんの地域社会への参加が難しくなっています。贈与や相続は親だけが考えるのではなく子育て世代こそ考えなければならないことなど、この紙面でお役立ち情報のほか、働き方に合わせた多様な地域参加の仕方なども発信して行きたいと思います。

創刊号への投稿募集

投稿で成り立つこのＫＡＷＡＳ！投稿方法などは下記に記載しておりますが、初めてのことなのでよくわからないこともあり、皆様と話し合いながら進めたいと思います。

投稿締め切りは発行月の五日到着分までとします。

ただし、投稿多数で紙面の割付が不足する場合などは、止む無く選考させていただきますので、全ての作品が掲載されるわけではないことをご理解ください。

PR 広告の募集

次の創刊号から掲載する広告を一般募集いたします。大きさと金額は記載の2種類だけとします。お申し込みを希望される場合は、広告の原稿をご準備の上ご連絡ください。

広告掲載
A サイズ
1回 5,000 円
幅 67mm× 高さ 67mm

広告掲載
B サイズ
1回 10,000 円
幅 135mm× 高さ 67mm

コラムは基本として 10 回連載を予定します。
広告枠を使いますので、コラム記載の場合は広告代を半額とします。

講座受講生の募集

ご自宅などで川柳や写真、絵手紙などの書き方を教えて欲しい方はお申し出ください。有料になりますが、教室を随時開催してまいります。5人以上であれば、講師派遣もいたしますので、お気軽にご相談くださいませ。

作品を投稿する方々へのお願い

★投稿作品は川柳、絵手紙、風景写真の3分野だけにします。
　かわいいお孫さんや愛するおばあちゃんの顔などは載せたい気持ちは山々ですが、この KAWAS では現在はお取り扱いを考えておらず、投稿いただいても掲載されません。ご注意ください。
★投稿の締め切りは発行月の5日到着分とします。
★作品数の制限はありません。しかし、お一人に偏る場合は調整させていただきます。
★川柳・絵手紙・風景写真の投稿は無料です。

投稿方法

①左の専用ハガキを切り取って郵送。（費用は当法人負担）
②郵便はがき、封筒、持参などで現物を投稿する場合は下記まで郵送、または持参してください。（専用はがき以外の投稿の郵送代等は個人負担でお願いします）
③E メールや専用サイトへのデジタルデータ投稿も受け付けます。（費用は投稿する方の負担）
★作品への想いやコメント、写真の場所などの情報は、作品の中に書き込まず、直接当法人にご連絡ください。（必要であれば当方から直接ご連絡をさせていただく場合もございます）

投稿作品の送付先

〒987-0601
宮城県登米市中田町石森字小人町 71-2
特定非営利活動法人　故郷まちづくりナイン・タウン　あて
電話番号　0220-44-4301（ファクス兼用）
投稿専用 E メール　kawas@nine-town.org
投稿作品公開ウェブサイト　http://kawas.nine-town.org

この投稿専用ハガキは受取人払いです。裏面の白い部分に直接書き込むか、コピー用紙等に書いた作品を、このハガキサイズからはみ出さないように貼り付けたものをお送りいただいても結構です。差出人欄は必ず記入してください。

料金受取人払郵便
佐沼局承認
607
差出有効期間
2021年5月31日
まで（切手不要）

郵便はがき

9870690

宮城県登米市中田町
石森字小人町71－2

特定非営利活動法人
故郷まちづくりナイン・タウン　行

差出人（投稿者）記入欄		
ふりがな おなまえ		□男・□女 年齢　才
おところ	〒　県	
電話番号		□自宅・□携帯
e-mail		

個人情報は当法人個人情報保護規程に基づいて、当法人の事業案内などの連絡に使用いたしますが、当法人から外部への提供等は一切いたしません。

編集後記

地域人口が減ること自体は苦しく辛いだけではなく、視点を変えれば充実して楽しくなることです。

田舎暮らしが楽しい、活き活きしている人が交流して支え合う街を紙面につくりたいと思います。

東北は縄文時代から多様な人が暮らしてきた街が点在しています。私たちはこれまで、多くの住民や各種団体、行政に支えられて活動を進めきました。

その恩返しとして田舎の暮らしに必要なフリーペーパーを発行することを決めました。

知恵を集めて正しく、より良き市民が市民のための活動を支えあえる田舎を目指します。

田舎ならではのまちづくりのために【田舎レボリューション】を宣言します。

令和元年六月三十日

紙ＳＮＳ-ＫＡＷＡＳ
編集長　伊藤　寿郎